



「志野 鉄絵花文角皿」 桃山時代（17世紀初）

中央に「岩に牡丹」、上下に「鳳凰」と「龍」、左右に「桐唐草」を鉄絵で描く

- 企画展** 「日本の陶磁器―懐石のうつわと茶器―」
- とき** 開催中～27年1月中旬
9:00～17:00（入場16:30まで）
- ところ** 松浜軒／松井文庫
- 閉園日** 毎週月曜 祝日の場合はその翌日
- 観覧料** 一般300円 小中学生150円
- 問合せ** 松浜軒 ☎ 33-0171

松浜軒では、企画展「日本の陶磁器―懐石のうつわと茶器―」を開催しています。松井家には、茶会や宴席で賓客をもてなす器が調えられています。これらは、美濃や瀬戸から九州に至るまで、各地の名窯で焼かれたものです。今日は、その中から志野の角皿を紹介しましょう。「志野」は、桃山時代（16世紀の終わり頃）、美濃（岐阜県南東部）で焼かれはじめました。その最大の特徴は、鉄分の少ない白い素地に長石釉（志野釉）を掛けた、日本で最初の白いやきものだったということです。

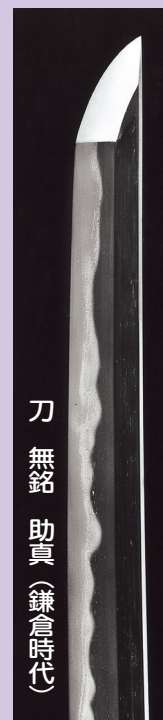
当時、中国の明では、白地にコバルト顔料で絵を描いた青花（日本でいう染付）が焼かれ、広く海外に輸出されていました。志野では、コバルトのかわりに鉄絵の具を用いた作品が焼かれました。残念ながら本場中国の端正な姿には遠く及びませんが、斑になった白濁釉や釉薬の下におぼろげに浮かぶ鉄絵の風情は、逆にわが国独特の「わび茶」の精神にかない、志野は一躍桃山茶陶の中心に躍り出たのでした。

（博物館学芸員 石原 造）

博物館秋季特別展覧会

もののふの美と心

―八代城主・松井家の刀剣と刀装具―



刀 無銘 助真（鎌倉時代）

肥後細川藩の筆頭家老で八代城を築いた松井家には、中世以来の名刀が多数伝えられています。その特徴は、実戦に適した「用の美」を備えたものが多いということです。また、刀身を収める刀装具（拵）は、肥後金工師による装飾金具を用いた「肥後拵」。茶人細川三斎の好みを伝える侘びた趣が、全国の刀剣ファンをうならせます。本展覧会は、松井文庫が所蔵する刀剣・刀装具の全貌を、八代ではじめて紹介するものです。

とき 開催中～11月30日(日)

休館日 11月4日(火)、10日(月)、17日(月)、25日(火)

観覧料 一般 600円(480円)

高大生 400円(320円)

※中学生以下無料 ※()内は20人以上の団体料金

※文化の日11月3日(月)は無料開放

主催 市立博物館未来の森ミュージアム、八代市、松井文庫、熊本日新聞社

協賛 宮嶋利治学術財団

■特別講演会「戦国時代の松井家」

とき 11月29日(土) 午後1時30分～3時 ところ 博物館講義室

講師 林千寿(博物館学芸員) ※事前申込み不要・参加無料

■実演講座「刀剣研磨師のしごと」

とき 11月15日(土) 午後1時30分～3時 ところ 博物館講義室

講師 正海郁雄氏(刀剣研磨師) ※事前申込み不要・参加無料

問合せ 博物館 ☎ 345555